



踏み固められ高く盛り上がった道路から自動車は消えている。写真提供＝名寄市北国博物館

その状況がわかる文書がある。昭和22年(1947年)12月16日の札幌市長・高田富興による「札幌市告論第一報」だ。「昨日来大降雪のため車両の交通は重要道路のみ可能で、その他は殆ど杜絶し、火災等一朝有事の場合には誠に寒心に堪えないものがある。依つて市民各位はこぞつて住宅付近道路を消防車通過に支障のないよう特急完全除雪を実施せられたい」。有事に備え、市民に自宅周辺道路の雪かきを強く要請しているのである。

それから70余年。札幌は人口約197万人の大都市になつ

すう! ほつかいどう学新聞 北海道発展の基礎に、除排雪あり!

自動車が消える冬

上の写真は昭和30年代の名寄市街である。家々の門口よりも道路が何10cmも盛り上がってることが、おわかりいただけただろうか。当時の北海道では、雪が積もると道路から自動車が消え、踏み固められた雪の上を馬橇(ばそり)で荷物を運搬していた。

その状況がわかる文書がある。昭和22年(1947年)12月16日の札幌市長・高田富興による「札幌市告論第一報」だ。

「昨日来大降雪のため車両の交通は重要道路のみ可能で、その他は殆ど杜絶し、火災等一朝有事の場合には誠に寒心に

堪えないものがある。依つて市

民各位はこぞつて住宅付近道

路を消防車通過に支障のない

よう特急完全除雪を実施せら

れたい」。有事に備え、市民に

自宅周辺道路の雪かきを強く

要請しているのである。

それから70余年。札幌は人

口約197万人の大都市になつ



第3号

2020 冬号

人口約197万人の札幌市には、年間約6mもの雪が降る。これほど豪雪地にある大都市は世界でも例がない。といふことは、都市機能も、道内各地を結ぶ交通インフラも、除雪に支えられているのである。こうした雪との関わりを学ぶことは、地域を知り、愛着を育むことにもつながる。除雪の歴史とこれから姿に、北海道が見えてくる。

た。世界を見ると、人口100万人以上の都市の年間降雪量は、札幌がダントツ1位で6m。2位がキエフ(ウクライナ)の3.5m。3位がサンクトペテルブルク(ロシア)で3m。札幌は、ともに豪雪地帯に成立する奇跡の街なのだ。

札幌では、降雪10cmで深夜から除雪作業がスタート。朝の通勤通学時には道路も歩道もきれいに開かれる。市が管理する

除雪対象車道の総延長は、なんと5400kmもあり、札幌から沖縄県石垣島までを往復できる距離だ。費用は1日1億円

000万円、一冬で210億円に上る。これだけのコストをかけて快適な生活が保たれている。

しかし、それほどやつても札幌市政に対する要望のトップは、除雪。ほぼ40年間、首位のままだ。除雪とは、永遠につかめない虹のようなものなのだろうか。

除雪は、税と政治、自助と公助の関係と不可分にある。子どもたちが次の時代を築くために、雪を学ぶことはきわめて重要ではないか。そんな問題意識から平成27年に始まったのが、札幌雪学習プロジェクトである。札幌市雪対策室が事務局となつて、札幌市教育委

段差、標識などの障害物について、雪のない季節にレーザーをして、データを集め、3Dマップに落とします。それがあれば積雪時でも地形や障害物が把握できます。さらに熟練者に聞き取りして、地点ごとに右・左・前のどの方向にどの角度で飛ばすかといったノウハウも令和元年度で自動化できました」。

人力から機械力へ、そしてICTの活用へ。除排雪は北海道発展の礎であるとともに、雪によって培われたものが未来を拓くカギにもなるのだと思感した。

文/北室 かず子

今年度はリアルタイムの対応が加わる。維持第一係長の椎名秀典さんいわく「路肩の雪山の高さに応じて飛ばす角度を自動調節する実験を行います。『3D-LIDAR』という装置で高さを計測し、3Dマップの情報、準天頂衛星『みちびき』の位置情報が連動するのです。安全確認は3Dカメラ、AI物体認証機能を有した接触防止システムが担います」。驚くべき進化だ。さらに除雪を効率化するため、吹雪で見えない視界を鮮明化する技術も開発されつつある。

360度回しながら道路走行して、データを集め、3Dマップに落とします。それがあれば積雪時でも地形や障害物が把握できます。さらに熟練者に聞き取りして、地点ごとに右・左・前のどの方向にどの角度で飛ばすかといったノウハウも令和元年度で自動化できました」。

NOTICE

ほっかいどう学 前進中!

① 発見の連続、2回のインフラツアースリーガー盛り上がる

念願のインフラツアースリーガー。今年度はコロナにも配慮して、会員の教育関係者だけの参加とさせていただきました。10月10日(土)の第1回は、三笠の砂子炭鉱(露天掘り)と新桂沢ダム。10月24日(土)の第2回は、船で茨戸川等の治水施設を視察したり、雁来排水機場を視察したりしました。

② 第2回 ほっかいどう学 シンポジウム

11月21日(土)、「ICTで進化する学校とほっかいどう学の可能性」をテーマに開催。北大の高野伸栄先生、東京学芸大の高橋純先生始め、専門家の方にお集まりいただき、デジタル教育時代に向けたほっかいどう学の在り方を議論しました。会場そしてonlineで約130名の皆さんにご参加いただきました。



詳しくは、ほっかいどう学HP(QRコード)をご覧ください。(<https://hokkaidogaku.org>)



「ほっかいどう学連続セミナー」予告

年明けは連続セミナー2連発

「連続セミナー」の日程が決定! 詳しくは、詳細は、近々上記ほっかいどう学HP(上記QRコード)でご案内します。

第3回 ほっかいどう学連続セミナー@上川 1月23日(土)PM

第4回 ほっかいどう学連続セミナー@後志 2月20日(土)PM

会員募集中

ほっかいどう学を応援してくださる皆さん、ぜひ、当法人へのご入会をご検討ください。会員のみなさんには、このほっかいどう学新聞をお送りするとともに、各種情報をメールで早めにお届けします。



ご入会の案内は左のQRコードよりご覧いただけます。



ほっかいどう学Facebookは、ほぼ毎日更新中。
フォローよろしくおねがいします!

ほっかいどう学新聞 第3号 2020年12月21日発行

発行人/新保 元康、編集人/北室 かず子、編集スタッフ/原文宏 宮川 愛由 森 希美、デザイン/スタジオコロール
発行所/特定非営利活動法人 ほっかいどう学推進フォーラム 〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17
TEL(011)738-3363 FAX(011)738-1889 URL <https://hokkaidogaku.org> E-mail info@hokkaidogaku.org